場所・面積

東京都あきる野市、83 ha

管理目的

●斜面崩壊を抑制する、健全な森の育成
管理不足で暗く衰退した不健全な森に手を加えて、林内を明るくすることにより、斜面崩壊を抑制する林床植生の発達を促す。
●生物多様性の向上
様々な生きものを育む場として機能するよう、豊かな森林生態系を守り育て、長期的な生物多様性の向上を目指す。
●サントリー社員の学びの場
社員の森林整備体験の場として活用することで 、社員の一人ひとりが、“自然との共生”を身近に感じながら、天然水の森づくりを実践する。

サイト概要

- 全域が東京都立秋川丘陵自然公園（普通地域）および鳥獣保護区に指定されている。
- 各所で斜面崩壊がみられるほか、尾根上に人為的に造られた堀もあり（根小屋城跡）、細かい尾根と谷が入り組む複雑な地形である。
- コナラを中心とした 落葉広葉樹の二次林が広く分布しており、多摩地域に典型的な景観が広がる。
- 天然水の森 とうきょう秋川を含めた周辺地域では、希少動植物の確認が報告されている。　（参考：あきる野市自然環境調査報告書 平成25 年 3 月 あきる野市）
- 加住丘陵に位置し、北側を流れる秋川や草花丘陵などとともに、生態系ネットワークの一部としての機能を担っている。

土地利用の変遷

1960年代：尾根部や起伏が緩やかな斜面では樹高が低く抑えられており、薪炭林として利用されていたことがうかがえる。
1980年代：広く落葉広葉樹林が発達しており、細かく入り組んだ谷筋は植林され、細い尾根部にはアカマツが生育する。落葉広葉樹の樹高は低く、樹冠が小さい傾向がみられたため、広範囲で薪炭林として利用されていたものと考えられる。
2010年代：樹林の種類や分布は変わっていないが、樹木が高く成長した様子がうかがえる。

サイト周辺の環境

秋川の南側に東西方向に連なる加住丘陵に位置し、丘陵地形に沿って、クリーコナラ群集やスギ・ヒノキ・サワラ植林を主体とする樹林環境が分布している。サイトの西側および南側の丘陵地の一部の土地はゴルフ場や霊園として利用されているほか、広い谷や平坦な土地の多くは住宅地となっており、当サイトは加住丘陵に残る樹林環境の主要な位置を占めている。

アピールポイント

- 奥多摩の山地から東方へ続く丘陵地の森林環境の主要な位置を占めるサイトであり、土地所有者との協定により長期にわたりまとまった面積の森林整備を行う体制を確立したことにより、生物多様性の保全と、水源涵養をはじめとする森林生態系の多面的機能の持続・向上に継続的に取組んでおり、地域の生態系ネットワークの保持に貢献している。
- 管理計画策定、管理計画の実行、モニタリングの実施など、各工程で各分野の専門家が関わり、連携することで、場の保全を担保している。
主な主体・・管理計画策定：サントリーホールディングス株式会社、株式会社地域環境計画（環境コンサルティング会社）
管理計画の実行：住友林業株式会社、モニタリング実施：株式会社地域環境計画　など

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

申請サイトは起伏に富んだ丘陵地に位置し、尾根から斜面、谷部にかけて主に夏緑広葉樹の二次林が広がっている。湿潤な谷部の各所にはまとまりのあるスギの植林もみられるが、生産林としての管理は近年行われておらず、広葉樹が多く混生している。東西に連なる稜線付近の一部には竹林が分布している。コナラ等のいわゆる雑木林が広がり、タヌキ、キジ、ウグイス等の里地里山を広く利用する動物の生息が確認されている。

【主な植生】

夏緑広葉樹林の大部分はコナラークヌギ群集であり、地形の違いによって、尾根から斜面にかけてヒサカキ下位単位が、斜面下部から谷部にはミズキ下位単位が主に分布している。
スギ植林は斜面下部から谷底に谷地形に沿って分布している。

【確認された主な動植物】

夏緑広葉樹林：コナラ、アカシデ、イヌシデ、リョウブ、ウリカエデ、ミズキ、アラカシ、シラカシ、エゴノキ、ヒサカキ、イヌツゲ、アセビ、ヤマツツジ、ヤブコウジ、ヤブラン、シュンラン、テイカカズラ　など
植林地：スギ、ヒノキ、アオキ、ツルグミ、キヅタ、ジャノヒゲ、ベニシダ、オクマワラビ　など
サイト内で確認された動物：タヌキ、キジ、フクロウ、ウグイス　など

写真の撮影年月：2023年4月7日
写真の説明：丘陵地の里山景観を保つまとまった樹林環境

写真の撮影年月：2014年9月13日
写真の説明：多様な植物がみられる林床（スギ植林）

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

申請サイトは多摩川の集水域に位置している。多摩川は東京都の水源として水道用水をはじめとして流域の暮らし・産業に必要な水を供給している。また、樹林の存在による土砂災害の抑制など、防災・減災に貢献しているほか、社員の森林整備体験の場として活用することで 、社員の環境意識の向上など教育・啓発的効果が得られているなど、様々な生態系サービスを提供している。

サイト内の植生は尾根から斜面、谷部にかけて主に落葉広葉樹の二次林が広がっている。

【主な植生】

コナラークヌギ群集（ヒサカキ下位単位、ミズキ下位単位、アカシデ下位単位など）
スギ植林

【確認された主な動植物】

動物
鳥類（64種）：ヤマドリ、アオバト、アカゲラ、アオゲラ、カケス、ヤマガラ、
エナガ、ミソサザイ、アカハラ、ルリビタキ、キビタキ　など
哺乳類（5種）：タヌキ、イノシシ、シカ、テン　など
植物（価値（３）と同様）

写真の撮影年月：2023年1月16日
写真の説明：自動撮影カメラで撮影されたテン

写真の撮影年月：2014年9月12日
写真の説明：多様な植物からなる夏緑広葉樹林

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、地域の動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

サイト内南西側の尾根に近い緩斜面で、スギ・ヒノキの植林木に夏緑広葉樹が混じる樹林地である。2017年にフクロウ用の巣箱を設置している。2022年4月の巡回調査で営巣・繁殖が確認された。
※諸事情により、巣箱位置の詳細は公開していない。

【対象となる動物種】

フクロウ（*Strix uralensis*）

【動物が利用している生活史】

繁殖、採餌

写真の撮影年月：2023年4月7日
写真の説明：設置しているフクロウ用巣箱

写真の撮影年月：2022年4月20日
写真の説明：巣箱で撮影されたフクロウ成鳥

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

【管理計画の内容】

◆管理1　混交林化を図る（関連：価値（3）・（4））
・管理箇所：管理が放棄された人工林（スギ植林・ヒノキ植林）
・実施時期：優先順位の高い箇所から順次実施中
・管理内容：生育不良のスギやヒノキの切り捨て間伐、下層の樹木は常緑樹・落葉樹に関わらず残し、土留めの役割を持たせるとともに、後継樹として育てる

◆管理2　林床植生の回復（関連：価値（3）・（4））
・管理箇所：傾斜の緩やかな場所にある落葉広葉樹林
・実施時期：優先順位の高い箇所から順次実施中
・管理内容：樹林内に繁茂する常緑樹を選択的に伐採し、林床の日照条件を改善する
萌芽成長した高木層のコナラは、根が浅いため、またナラ枯れ対策のため必要に応じて株ごと伐採し、林床の日照条件向上とナラ枯れ拡大防止を図る
シカによる採食を防ぐため植生保護柵を設置

◆管理3　つる植物の拡大防止（関連：価値（3）・（4））
・管理箇所：つる植物が繁茂する崖錐部
・実施時期：地形的に作業可能な箇所から順次実施中
・管理内容：崖錐部に隣接する樹木に巻き付いたつる植物のつる切りを行う

◆管理4　竹林の密度管理・拡大防止（関連：価値（3）・（4））
・管理箇所：モウソウチク林
・実施時期：冬期を中心に毎年継続的に実施
・管理内容：古い竹を伐採し密度管理（25本/100㎡）、周辺樹林に侵入している竹は腰高伐採し竹林の拡大を防ぐ

◆管理5　管理歩道の修繕（関連：価値（3）・（4））
・管理箇所：藪化や斜面崩壊により安全な利用の障害や滑落等の危険のある管理歩道
・実施時期：優先順位の高い箇所から順次実施中
・管理内容：危険な箇所の明示、歩道周辺下草の刈り払い、土留め・階段の設置など

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】

①「管理2」で施業した箇所の植生
②価値（3）（4）に関係する鳥類
③価値（8）に関係するフクロウ

【モニタリング場所】

①「管理2」で設置した植生保護柵内外
②サイト南縁稜線上の管理歩道
③フクロウ用巣箱

【モニタリング手法】

①植生保護柵内外における植生調査
②ルートセンサス調査
③巡回調査による巣箱の利用・繁殖状況確認

【実施時期及び頻度】

①夏～秋頃、1回/年
②5～6月頃・11～12月頃、2回/年
③巣箱モニタリング：4月頃、1回/年
　巣箱メンテナンス：5～6月頃・11～12月頃、2回/年

【 実　施　体　制 】

管理作業：住友林業株式会社
モニタリング：日本鳥類保護連盟、株式会社地域環境計画